

## 第2回臨床宗教師養成講座 報告書



2017年の臨床宗教師養成講座では、新たに3名の臨床宗教師が誕生しました。今回は滋賀県・石山寺と奈良県・天理教浪華分教会信者詰所を会場に研鑽を積みました。

### 目次

|                    |         |
|--------------------|---------|
| ごあいさつ              | p.1     |
| 第2回臨床宗教師養成講座修了によせて | p.2     |
| アドバイザー報告 申英子       | p.2     |
| 臨床宗教師に接してみても       |         |
| 河原正典               | p.3     |
| 臨床宗教師養成講座にかかわっても   |         |
| 村上泰教               | p.4-5   |
| 第2回臨床宗教師養成講座実施報告   | p.6-9   |
| 受講生の感想             | p.10-11 |
| 研修を終えて             | p.11    |
| 認定臨床宗教師について        | p.11    |
| 新聞報道               | p.12    |

平成27年度より始めました当センター主催の臨床宗教師養成講座も、この度第2回の講座を実施し、3名の修了生を送り出すことができました。また今回より真言宗大本山石山寺様にご協力いただき、昨年同様奈良県天理市の天理教浪華分教会信者詰所と、新たに滋賀県大津市の石山寺明王院を会場として、更に充実した環境で研修を終えることができました。

今回の研修では10名の募集定員にも関わらず申込後のキャンセル等があり、受講者は4名でスタートし、最終的に3名の方が修了される結果となりました。壇務の多忙や急な葬儀によって何人かの方が研修のキャンセルをせざるを得ない事態となり、このような残念な結果となってしまいました。臨床宗教師が宗教者である以上、日常の宗教者としての活動が第一であるのは当然のことであると思います。ただ、今回受講を希望しながらもそれが叶わなかった方々が、臨床宗教師に対して強い思いをお持ちであっただけに大変残念でなりません。日々宗教者としての活動に励まれている方に講座を受講していただきたい一方で、活動が忙しい方ほどその受講の時間がないというディレンマを今強く感じています。

いよいよ平成30年3月には日本臨床宗教師会より臨床宗教師の資格認定が行われます。今後は認定資格として臨床宗教師はさらに社会から注目されると同時に、それに応えられるよう、さらなるスキルが求められると思います。当センターでも今後、宗教活動と両立して受講しやすい研修の実施形態を模索すると同時に、地域社会で活躍できる臨床宗教師を数多く輩出できるよう、カリキュラムの充実を目指し、努力を続けてゆきたいと思います。

臨床密教センター センター長 松本 峰哲

## 第2回臨床宗教師養成講座 修了によせて

### アドバイザー報告



日本基督教団西九条ハニル教会牧師  
日本スピリチュアルケア学会スピリチュアルケア  
師  
臨床スピリチュアルケア協会運営委員  
米国&日本ハコミ研究所認定心理療法士  
申 英子

第2回臨床宗教師養成講座に関わらせて頂きました。

昨年の9月末より11月にわたって3回、7日間の研修に共に参加、会話記録のスーパーバイザー(SV)のお役目を与えられました。

はじめて真言宗のお坊様たちと出会い、たくさんのことを学ばせていただきました。

また、研修の会場が石山寺、天理教本部の中の教会ということ、いろいろな方との出会いから新鮮でころ踊るような感動を覚えました。

会話記録というものはとても不思議なものです。書かれた記録から、クライアントの哀しみ、苦しみ、悩みのみならず、ケアワーカーのころのありようまでリアルに映し出すものです。

研修者の方々は、宗教者としての訓練と実践を長年なされて来られた方々です。聴くというよりは目の前の方の苦しみは何で、どうしてあげたら良いかということに気が向いてしまう傾向があります。しかし、臨床宗教師はその態度では務まりません。

むしろ、しっかり相手の方のお話を伺わせて頂くことにより、その本音の部分をとらえ寄り添う訓練を積むのです。

今回の研修生の方たちはとても真摯にこの課題に

取り組まれたと思います。SVとして、心ならず、いや心を鬼にしても、きつい言葉を発することもありました。

SV自身もこの訓練をはじめに受けたとき、まあ、ここまで言われねばならないのか、という辛い思いを経験しています。しかし、終わってみるときつければきついほど、金だわしで肌をこすって頂き、垢を落として頂いたという爽やかさも経験しました。

今回、終わってからポロっと訓練がきつかったのでしょう。ある方が「人格を否定された感じ」と呟かれたのを聞きました。人格(パーソナリティ)とはラテン語でペルソナ(仮面)からきています。この訓練はたくさんの仮面を付けているケアワーカーが、自らその仮面の一つひとつを外し、素の自分に限りなく近くなってはじめてできる仕事なのです。

辛さを通して、自らの仮面がどれだけ本当の自分を感じがらめになっているかに、気づかれると爽やかな解放感をいただきます。つまり、人様のお役に立ちたいと頑張っていると難しくても、目の前におられる方がお釈迦様の変わりのお姿だと思って、謙虚に穏やかに耳を傾け、寄り添って行くと自ずと相手の方も自分もころが楽になっていきます。

すこし偉そうなことを申し上げましたが、同じ道を行くご縁を感謝しつつ、感想を述べさせて頂きました。センターの増々のご発展をお祈り申し上げます。

ありがとうございました。

申 英子





## 臨床宗教師に接してみて

日本緩和医療学会  
緩和医療専門医  
河原正典



臨床宗教師というものに割と初期のころから接してみ、かれこれ、6年以上が過ぎました。東北大学や種智院大学で講義をさせてもらって、いろいろな宗教者の方と接してきました。今回は、寄稿文を松本先生に依頼されて書いているのですが、実を言うと、この原稿は4回目の書き直しになっています。最初は、当たり障りのないことを、少しスパイスを効かせて書けばいいかなと考えていたのですが、書きあがった文章を読むと何かが違うなと思って、書き直しています。多分、臨床宗教師に関わってきて、思った以上に反響があるが、思いのほか伝統宗教は動かないものだなと感じているからかもしれないです。このあたりのことを書いた文章もあるのですが、書いているうちに、伝統宗教に私が勝手に期待していただけなんだなと気が付いたので、その文章は止めにしました。なので、個々の宗教者に対して書くべきなのだろうと思って、この文章を書きあげました。

緩和医療に携わるようになり、さらに臨床宗教師に関わって、いまさらながらに哲学や社会学の本を真剣に読むようになりました。ある本を読んだときに「人間は自分が欲しいものは、他人から与えられるという仕方ではしか手に入れることができない。そして、何かを受け取った人は、心理的に負債感をもちお返しをしないと気が済まない」というような内容が書いてありました。私は終末期の癌患者さんの「家族に迷惑をかけたくないから入院したい。」という言葉とすぐリンクして、この文章が私の心に響きました。患者さんにとっては、家族に労力（介護）を提供してもらうが、患者さんはその労力に見合うものを返すことができない（自分が亡くなってしまうから）ということ、患直感的に理解しており、「迷惑をかけたくないから入院したい。」と言っているのだと腑に落ちた気がし



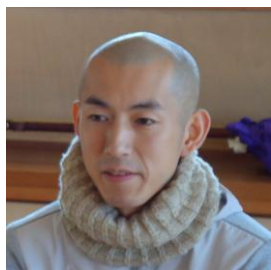
ました。

スティーブジョブズの言葉です。

「知ってると思いますが、私たちは自分たちの食べる食べ物のほとんどを作ってはいません。私たちは他人の作った服を着て、他人のつくった言葉をしゃべり、他人が創造した数学を使っています。何が言いたいかというと、私たちは常に何かを受け取っているということです。そしてその人間の経験と知識の泉に何かをお返しができるようなものを作るのは、素晴らしい気分です。」

臨床宗教師に関わっている宗教者の方々は、気が付いているのではないのでしょうか？今の日本で、私が勝手にそう思っているだけかもしれませんが、伝統的な宗教が行き詰っている原因の一つは、お布施や寄付の対価としての宗教者の行為（葬儀や法事）が、一般の方々には、釣り合いが取れなくなっていると感じていることを。きっと臨床宗教師の講座に来られる宗教者の方々は、宗教者としての経験と知識の泉に何かをお返しができるようなものを模索しているのだと私は思っています。いつかその答えを知ることができればなと思って、臨床宗教師にこれからも関わっていくのだろうと思っています。

## 臨床宗教師養成講座にかかわって



WCRP 青年部会幹事

石鎚山真言宗総本山極楽寺教学部長

弘元寺副住職

村上泰教

昨年度は「対話」についてまでお話出来ず、物足りなかったのではないかと思います、この度「宗教間協力と対話」というテーマで講義をさせていただきました。信仰の違いは勿論のこと、死後の世界を有とするのか無いと考えるのか、また文化や風習の違いに目を向け、自分と違う価値観を持った人間とどのように向き合い、接していくのか。私という人間をひとつ取っても昨日の機嫌と、今日の機嫌が違うわけであり、況してや目の前の相手を自分の感覚や考えで型に嵌めて「幸不幸」を一方向的に判断する行為は真実から離れていくものとなります。このような思考をここで述べるは釈迦に説法というものであり、承知されるように仏教の根本教説である諸行無常からは常なるものは無い、楽を目の前にする人にはその楽はずっと続くものでは無いと言い、苦を前にする人にはその苦もずっと続くものでは無いと言う。大乘、龍樹菩薩の教説に空性とは何かを乞えば、色受想行識の五蘊は皆空と説かれま。しかし実体があると誤認し、執着のままに生きてしまうのは何故でしょう、目の前の苦しみが永遠に続く苦しみでなないのだろうかと思ってしまうのは何故でしょう、他者は幸せそうだと思い自分は不幸だと思ってしまうのは何故でしょう、等々。大師は『十住心論』において「心病おほしといえどもその本は唯一つ、いわゆる無明これなり」と論じられます。結局、根本原因は無明であるでしょう。自身は勿論、目の前で苦しんでいる方の無明とは何でしょうか。

また釈尊の教説に立ち帰り、苦集滅道の四諦は苦より寂静境に導く一つの完成された真理、プロセスであると気付かされます。私たち僧侶をはじめ仏教徒は苦

しみに陥る、陥っている状態とは何であるのかを知るべきです。そして同じく苦に繋がれている他者にも向き合う為に、仏教の道理を通して自己の信仰に立ち帰り、修行の実践や信心を元に「救われた体験」がなければなりません。必要のある時を見定めて、自分が本当に美味しいと思えるものを他人に勧めたいものです。

私は週に一度、臨床仏教師としての活動として緩和ケア病棟でボランティアをしています。そうすると現場では、今までニコリともしなかった主人が笑顔を見せました！こんな穏やかな時間を過ごせたのは久しぶりです！など、ご本人やその家族が言って下さることがあります。とてもありがたいことです。しかし私は別段、特別なことは何一つしていません。唯々穏やかに向き合い声を聴いているだけです。それなのに涙を流して喜ばれる方もあります。その瞬間は私も心が一杯になります。相互供養の一つでもあると思っています。しかし病室を出ると、いま自分が行っていることは、本当にこの方の無明を除くような、また照らすような行い、布施行であるのだろうかと考え悩みもします。密教行者ならば仏と自心と衆生の三平等を行じるとは思いますが、苦の現場にいる人びとを目の前にするとその実現の難しさにも気付かされます。お釈迦様が相手の機根を窺っていたとするのは相手の状況に合わせ話していたことを示す対機説法という言葉が残っていることから分かります。その人、その場所、その時に必要なものは刻一刻と無常に移り変わっていく。その一瞬、その一瞬に気持ちを据え、その



▲天理教本殿を見上げる



瞬間に立ち帰ることは重要に思います。

この度の研修生の皆さまを拝見し思いましたのは、人の「苦」とは何であるのか、また「死」とは何であるのか、他人様のことよりもまず初めに自分の中にある「苦しみ」や「悲しみ」「死」とはどのようなものか一緒に向き合い考える時間を持ちたいということが一つ。また自身の内側に潜んでいる感情とそれに付随する反応、それらの元となる過去の経験の一端を確認する作業など、深まった見識を仲間たちと共有しておく必要性も感じました。『大日経』に「如實知自心」を説きますが、まことに自心を知ること、如実に知ることが大切です。未知なる苦しみや恐怖に出会った時に人はとても動揺します。自分の内側にあるものと向き合いきって、また自分の苦を救済する仏の慈悲、加持に遇してから。

つまり何かしらの救われる経験を得てから他者の苦しみに対面することが重要です。それはバーンアウトと言って、他人の苦に向き合うなかで自身が燃え尽きてしまう恐れを防ぐものとなります。また自身の心の整理が出来ずに向き合うとなれば、相手を逆に気遣わせてしまうこともよく起こり得ることです。いずれにしてもまず苦しみの現場に飛び込んで自分が衰弱してしまわないことが大切です。仏の教え、信仰を持っている者の強みは不壊なる拠り処が備わっていることです。これは一般の人には無いものです。信仰の無い方にすれば、例えるならば疲れた体を休ませてくれる温かな帰る家のようなものです。まずは臨床密教センターの看板のもとに今一度、自身の信心の内にある真言宗の安心を確立させていることが最重要に思います。現場では要請のない限りに説法をしませんが、その代わり一つの安心を得て相手の前に向き合うのと、不安一杯に相手の前に向き合うのとではその結果明かです。穏やかな物腰で相手の前に立つことは布施行の始めに思います。そして我々は輪廻を信じています。ならば相手の胸の内にある苦を少しでも除くことができたならば、また慈悲による言葉を発せられたならば、それが善い種子となって相手の阿頼耶識に撒かれ、善き来世へと繋がるものになると信じることもできます。



## 第2回臨床宗教師養成講座実施報告

臨床密教センターでは、平成29年9月から11月にかけて第2回臨床宗教師養成講座を実施しました。カリキュラムについては、昨年に引き続き東北大学で実施されている臨床宗教師研修（特に第7期）のカリキュラムに準じたものとし、受講者を真言宗僧侶に限定しました。その為、カリキュラムには真言宗教義に関するもの、異宗教理解・交流に関するものを設置していることが大きな特徴です。

### ・・・研修データ・・・

#### 期間

- 全体会 1 2017年9月11日（月）～12日（火）  
全体会 2 2017年10月30日（月）～11月1日（水）  
全体会 3 2017年11月27日（月）～28日（火）

#### 全体会会場

- 第1回・第3回：大本山 石山寺（滋賀県大津市）  
第2回：天理教浪速分教会信者詰所（奈良県天理市）

#### 実習先

松阪市民病院緩和ケア病棟（三重県松阪市）  
松阪市が運営する市民病院内にある院内独立型の緩和ケア病棟。臨床宗教師が活動している。

長岡西病院ビハラー病棟（新潟県長岡市）  
医療法人崇徳会が運営する仏教系緩和ケア病棟。病棟内に仏堂があり、朝夕に読経の時間がある。常勤ビハラー僧の他に、十数名の地元の僧侶がボランティアとして関わる（超宗派）。

くぬぎ山ファミリークリニック オガールむつみ  
（千葉県松戸市）

共に医療法人社団豊寿会が運営しており、くぬぎ山ファミリークリニックは在宅支援診療所で訪問診療、訪問介護を行い、オガールむつみはサービス付き高齢者住宅。社会福祉法人高嶺福祉会と協力関係にあり、同法人の運営している特別養護老人ホームさつまの里、初富の里ではデイサービス、ショートステイも行う。



▲第1回・第3回全体会の会場は石山寺。朝の勤行にも全員で参加させていただきました。紅葉の境内で、朝勤行の後の一枚。

#### 研修修了者

|      |     |        |
|------|-----|--------|
| 足立隆厳 | 北海道 | 高野山真言宗 |
| 岩下仙海 | 栃木県 | 豊山派    |
| 藤岡隆円 | 香川県 | 善通寺派   |

#### 研修スタッフ

松本峰哲 真言宗御室派 種智院大学臨床密教センター長 東北大学臨床宗教師研修第6期修了生  
上田禮子 天理教 東北大学臨床宗教師研修第5期修了生  
谷山洋三 浄土真宗大谷派 東北大学実践宗教学寄付講座准教授  
申英子 キリスト教 日本基督教団西九条ハニル教会牧師  
木村雅恵 天理教 東北大学臨床宗教師研修第3期修了生  
新田忍澄 高野山真言宗 東北大学臨床宗教師研修第5期修了生  
野々目整子 浄土真宗大谷派 東北大学臨床宗教師研修第6期修了生  
西郊良俊 天台宗 東北大学臨床宗教師研修第7期修了生  
坂野大徹 浄土宗 東北大学臨床宗教師研修第7期修了生  
楠直樹 浄土真宗大谷派 東北大学臨床宗教師研修第11期修了生  
鷲尾千賀子（龍華） 東寺真言宗 種智院大学臨床密教センター 事務担当 東北大学臨床宗教師研修第7期修了生





## ▲第1回全体会での講義風景

### 【プログラム内容】

#### 講義科目

「臨床宗教師の倫理・理念」（谷山洋三先生）  
臨床宗教師を目指すにあたって、その成立や現在に至るまでの経緯をたどり、臨床宗教師の理念を学んだ。また、臨床宗教師がケア対象者に対して守るべき倫理「臨床宗教師倫理綱領」の内容を確認し、公共空間で活動するために宗教者が臨床宗教師として活動するときに必要な宗教間協力・自分自身を見つめることなど諸事項を確認した。

「スピリチュアルケア」（谷山洋三先生）  
「痛み」の中でも「病氣」とは異なる「スピリチュアルペイン」があることを踏まえ、それを和らげるためのスピリチュアルケアの基本姿勢を学んだ。

「会話記録の作成法」（松本峰哲先生）  
ケア対象者との会話を振り返る会話記録の作成に向けての解説。

「実習先説明」（谷山洋三先生）  
実習先としてご協力いただく施設についての事前学習。また公共空間で活動する際の諸注意を確認した。

「在宅医療医の意見」（河原正典先生）  
がんについての知識や、「臨床宗教師」を提唱した岡部武医師のお話、傾聴する上でどういった心掛けが必要かについて、河原先生から受講生に向けての問いかけをお話いただいた。

「グリーフケア」（谷山洋三先生）  
喪失と悲嘆（グリーフ）について学び、それを癒すためのケアとして宗教者の「死者と生者をつなぐ」機能（葬儀や仏壇）が役立つことを理解した。また、悲嘆

に伴う行動的・生理的反応や「あいまいな喪失」、治療のためのガイドラインについても学んだ。

「宗教的ケア」（谷山洋三先生）  
スピリチュアルケアとは異なる宗教的ケアがどういったものであるかを学び、宗教者としてのケア、宗教的資源の活用について理解を深めた。

「グリーフケア2」（山本佳世子先生）  
様々な形の「死別」があることを確認し、喪失期の段階、その悲しみへの寄り添い方について学んだ。

「宗教学」（上田禮子先生）  
真言宗にとっては「他宗教」となる天理教の教義・死生観を学び、臨床宗教師として活動するために必要な他宗教への理解を深めた。

「公共性の確保」（松本峰哲先生）  
臨床宗教師の活動の場は公共空間である。そのことを踏まえ、社会常識を守ること、各自が公共性を身に付けることの重要性を確認し、東日本大震災の際、公共空間において宗教者がどのような活動をしてきたか実例を挙げて考察した。

「介護現場と宗教者」（吉田敬一先生）  
大阪の西栄寺で介護事業をする吉田先生自身の経験、実際に介護現場で知っておかなければならない知識、臨床宗教師の在り方などについてお話しいただいた。

「ひのきしんの意味」（上田禮子先生）  
フィールドワークとして取り組む天理教の奉仕活動「ひのきしん」を行うにあたっての説明。単なる奉仕活動ではなく、その根底にどのような教義が流れているかも学んだ。

「緩和ケア」（平野博先生）  
緩和ケアとは何かについての理解を深め、講師の実体験に基づき、末期がん患者に接する緩和ケアの現場の話を通じて、ケア対象者に対してできることについて考えた。

「宗教間対話」（村上泰教先生）  
「世界宗教者平和会議（WC R P）」での講師の実際の活動に基づいて、世界には様々な宗教対立があることを踏まえ、なぜ争いが起こるか、異なった宗教間でどのように対話していくかを考んだ。

### 「社会福祉」 (近棟健二先生)

社会福祉とは何か、また高齢化に伴う介護福祉の現状を学んだ。実際に臨床宗教師が現場で活動する際深くかかわる介護に関する保険やサービス、今後予想される状況について理解を深めた。

### 「臨床密教学」 (松本峰哲先生)

密教の教義を宗祖弘法大師の著作などをもとに再確認し、真言宗僧侶が現代において密教をどのように生かすことができるか考えた。

### 「がんの経験から」 (中山隆平先生)

ご自身の闘病の経験から立ち上げた男性限定の「がんカフェ」についてと、臨床宗教師に期待することについてお話しいただいた。

### 「民間信仰論」 (松本峰哲先生)

現代日本において宗教の教義と一般に信仰されていることに乖離があることを確認し、臨床宗教師は自らの信仰を保持しつつ他者の信仰に寄り添う必要があることを学んだ。

### グループワーク

#### 「傾聴」 (谷山洋三先生)

2人1組になり、人の話に耳を傾ける傾聴を実際にしてみて、フィードバックを行う。また、傾聴する際の姿勢や心構えについても学んだ。

#### 「ロールプレイ」 (谷山洋三先生・申英子先生)

2人1組になり、配布されたプリントに記載してある状況の中から一つ選択し、話し手と聞き手の役を演じる。そして、実際に話してみても話し手はどのように感じたか、聞き手はどういった感情が起こったかなどを振り返った。

### 「ユマニチュード」 (正井佳純先生)

介護を必要とする人への視線の向け方や姿勢、触れ方など、必要な援助の技術「ユマニチュード」について学び、実際に二人1組で実践した。

### 「実習振り返り」 (松本峰哲先生)

第2回・第3回全体会の初めに、前回の実習先での体験・気づきについて発表し、研修生同志で共有した。

### 「会話記録」 (谷山洋三先生)

実習先での会話記録を、臨床宗教師、ケア対象者、ナレーション役を決めて読む。会話記録作成者は必ず自分がかかわったケア対象者のセリフを読み、どのように感じたかを共有した。

### 「研修振り返り」 (松本峰哲先生)

それぞれの全体会の最後に、研修を振り返り、感じたことを共有した。

### 「会話記録」 (申英子先生)

実習先での会話記録を、臨床宗教師、ケア対象者、ナレーション役を決めて読む。会話記録作成者は必ず自分がかかわったケア対象者のセリフを読み、どのように感じたかを共有した。

## 【全体会日程】

### 全体会1

#### 9/11月

- 9:30 石山寺集合  
10:00 - 11:00 オリエンテーション 60分 松本峰哲  
11:00 - 12:00 講義「臨床宗教師の倫理・理念」  
60分 谷山 洋三  
12:00 - 13:00 昼食・休憩  
13:00 - 14:00 講義「スピリチュアルケア」60分  
谷山 洋三  
14:10 - 15:10 グループワーク「傾聴」 60分  
谷山・申  
15:20 - 15:50 講義「会話記録の作成法」  
30分 谷山 洋三  
16:00 - 17:00 講義「実習先説明」60分  
谷山 洋三  
17:00 - 19:00 入浴・食事  
19:00 - 20:30 講義「在宅医療医の一意見」90分  
河原 正典  
20:40 - 20:55 日常儀礼 (真言宗) 15分

#### 9/12火

- 7:30 - 8:00 朝食  
8:00 - 8:30 日常儀礼 (真言宗) 30分  
8:30 - 10:00 講義「グリーフケア」90分  
谷山 洋三  
10:10 - 12:10 グループワーク「ロールプレイ」  
120分 谷山 洋三  
12:20 - 13:50 昼食・掃除・休憩  
13:50 - 14:50 講義「宗教的ケア」60分  
谷山 洋三  
15:00 - 16:00 研修振り返り 60分 谷山 洋三  
16:00 - 16:30 日常儀礼 (真言宗) 30分  
解散



全体会2

10/30月

9:30 天理駅集合→天理教浪華分教会信者詰所へ  
 10:15 - 10:30 日常儀礼（天理教）15分  
 10:30 - 12:00 講義「グリーンケア2」 90分  
 山本 佳世子  
 12:00 - 13:00 昼食・休憩  
 13:00 - 14:30 講義「宗教学」90分 上田 禮子  
 15:00 - 16:00 講義「公共性の確保」 60分  
 松本 峰哲  
 16:00 - 18:00 入浴・夕食・休憩  
 18:10 - 19:40 講義「介護現場と宗教者」90分  
 吉田 敬一  
 19:45 - 20:30 日常儀礼（天理教）45分

10/31火

5:45 - 6:45 朝づとめ（天理教）20分  
 6:45 - 7:45 朝食・休憩  
 7:45 - 8:15 講義「ひのきしんの意味」30分  
 上田 禮子  
 8:30 - 11:30 フィールドワーク「ひのきしん」  
 180分  
 11:30 - 13:00 昼食・移動・休憩  
 13:00 - 14:00 グループワーク  
 「ひのきしん振り返り」60分 松本 峰哲  
 14:10 - 15:40 グループワーク「ユマニチュード」  
 90分 正井 佳純  
 15:50 - 17:20 講義「緩和ケア」90分 平野 博  
 17:20 - 19:20 入浴・夕食・休憩  
 19:20 - 20:50 講義「宗教間対話」90分  
 村上 泰教  
 20:50 - 21:05 日常儀礼（天理教）15分

11/1水

6:00 - 7:00 朝づとめ（天理教）20分  
 7:00 - 8:00 朝食・休憩  
 8:00 - 9:00 グループワーク「実習振り返り」  
 60分 松本 峰哲  
 9:10 - 10:40 グループワーク「会話記録」  
 90分 申英子  
 10:40 - 10:50 休憩  
 10:50 - 11:50 グループワーク「会話記録」  
 90分 申英子  
 11:50 - 13:20 昼食・掃除  
 13:20 - 14:50 講義「社会福祉」 90分  
 近棟 健二  
 15:00 - 16:00 研修振り返り 60分 松本 峰哲

16:00 - 16:15 日常儀礼（天理教）15分  
 解散

全体会3

11/27月

9:45 石山寺集合  
 10:00 - 10:15 日常儀礼（真言宗）15分  
 10:25 - 11:55 グループワーク「実習振り返り」  
 90分 松本 峰哲  
 11:55 - 12:55 昼食・休憩  
 13:00 - 14:30 講義「臨床密教学」90分  
 松本 峰哲  
 14:40 - 15:40 講義「がんの経験から」 60分  
 中山 隆平  
 15:40 - 17:40 入浴・夕食・休憩  
 17:50 - 19:20 講義「民間信仰論」90分  
 松本 峰哲  
 19:30 - 19:45 日常儀礼（真言宗）15分  
 19:55 - 懇親会

11/28火

7:30 - 8:00 朝食  
 8:00 - 8:30 日常儀礼（真言宗）30分  
 8:30 - 10:00 グループワーク「会話記録」90分  
 申 英子  
 10:00 - 10:10 休憩  
 10:10 - 11:40 グループワーク「会話記録」90分  
 申 英子  
 11:50 - 13:20 昼食・掃除  
 13:20 - 14:20 研修振り返り 60分 松本 峰哲  
 14:20 - 15:00 修了式 60分  
 解散



▲天理教の「手おどり」の練習をする受講生たち

## 受講生の感想

### (第2回臨床宗教師養成講座)

種智院大学 臨床密教センターの第2回目の研修では、3名の臨床宗教師が新たに誕生しました。それぞれに胸に抱く思いを語っていただきます。

#### 足立 隆厳さん (高野山真言宗)



9月から始まったプログラムでしたが、全体会、個別実習をさせて頂いたことで楽しさ、辛さ、連帯感、奉仕する心と感謝する心をたくさん学ばせて頂きました。

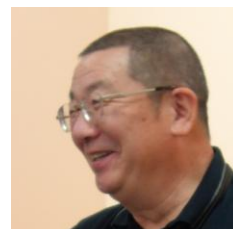
講習会の初回は受講生4名で始まりましたが、1名が御自坊のご都合で止む無く辞退されたことはとても残念でなりません。

その後は3名で養成講座は続きましたが、多くの講師の先生方、臨床宗教師の諸先輩たちにご指導、ご協力を頂き最後まで受講することが出来ました。講義の中では私たち受講生の思いとは違い、常に課題の先の先を読み取り、人の心の不安をどう落ち着かせていくのか？とか、人をどう幸せな気持ちに導けるのかを一つ一つ丁寧にお伝え下さったことは、現在の生活の中で非常に役に立っていて、檀信徒さんとの対話はもちろんではありますが、葬儀や法事等でご縁が出来た方々へのグリーフワークにとっても生かされています。

受講前と受講後での私の性格や人との関わり方の違いを家族が一番変わったと驚いております。妻や子供たちにやさしくなったね。と、言われた時には少し照れ臭かったのですがこれもこの臨床宗教師養成講座を受講させて頂いたからこそ学べたものだと感じています。

これから臨床宗教師として諸先輩や共に学んでいく仲間たちと宗教者として人様のお役にになれるように精進して参ります。

#### 岩下 仙海さん (真言宗豊山派)



昨年の9月から11月にかけての臨床宗教師養成講座参加におきましてお忙しい中御指導頂いた松本センター長はじめ関係者様に対しまして心より御礼申し上げます。正直申しまして師僧の田中雅博医師の遺戒が無かったらこの研修には参加していなかったと思います。師僧は医者だから臨床宗教師の必要性を説いているのだと常々思っておりました。それが昨年3月21日に寂されてあらためて思想の遺志を継ごうと思った次第です。

今までは信徒さんを前にして説法をしたりしておりましたので傾聴する事は人生相談の延長くらいにしか思っておりましたが、只ひたすらに聞くという事がどれだけ大変かが後からわかりました。

また臨床現場での活動に於いても、死にゆく患者さんの看護をする医療従事者の方々の苦労がこんなにすごいのかと改めて知らされました。拙僧はMRという職業柄医療現場はアウトサイドだったので医療という行為を甘く見ていた事が良く判ります。しかし実際の現場は自分の想像以上でした。死にゆく人の様、それを看取っていく家族の方、またそれを支えていく医療従事者の冷静な対応、それを見て大変なショックを受けました。

グループワークにおいても先生方に鍛えられたことはよい体験になったと思います。少々きつかったですがこれから医療の現場に行って患者さんを相手にする事を考えれば当然だったと思います。

人の命にかかわるという事は大変な重みのある事ですから単なる仕事の一環と思わず自分の命を削ってもやり抜く覚悟が必要だと思います。またそれが出来るのは我々宗教者だと思います。これから拙僧はその誇りをむねに精進していきたいと考えます。ありがとうございました。



藤岡 隆円さん  
(真言宗善通寺派)



研修講義は大変重厚な内容でした。この度の研修を通し他宗派・各専門分野の先生方、諸先輩方々、同僚の研修生方々の知力と法力、及び信徒さん達の願力のお陰で無事修了でき、何よりも自分自身が全く気付かなかった本質に気付く事ができて実にありがたかったです。宗派・職業の枠を超えて素晴らしい人達と知り合えた事が一番嬉しかったです。

私は民衆を静謐と安穩に導くのが僧侶としての使命と認識しています。今後の活動目標は、研修で学んだ事を生かし真摯な態度で、先ず信徒さん達の病床の場で、及び自坊でのグリーフケアを実践しつつ、所属地区の代表や諸先輩方々と相談を重ね活動の場を求め広めていく事です。又私は還暦を超えている為、歳の若い僧侶達に臨床宗教師養成講座の受講をする様声掛け（人材の発掘）をし、私も共に研鑽を積みたいです。

## 研修を終えて

今回の研修も第1回と同じく、受講生を真言宗僧侶に限って実施しましたが、天理教浪華分教会様、そしてお手伝い頂いた他宗教・他宗派の臨床宗教師研修了者の皆様のご協力によって、臨床宗教師の重要なスキルの一つである「宗教間協力・対話」についても十分に学ぶことができました。また今回は金田諦應老師に突然のご訪問を頂き、急遽受講生への講義をして頂くことができました。受講生にとっては臨床宗教師の始まりの理念を聞くことが出来た大変貴重な機会でした。

更に今回は真言宗大本山石山寺様に会場をご提供いただきましたが、当センターの研修に真言宗の大本山様のご協力を頂いたことはたいへん大きなことだと考えています。今後臨床宗教師がさらに活動を広げていくにあたり、各臨床宗教師が所属する教団・宗団の臨床宗教師に対する理解と連携は不可欠であると思っています。

修了生の皆さんには研修にご協力頂いた多くの方々の想いを忘れること無く、今後も活動に精進して欲しいと思います。

## 認定臨床宗教師について

平成30年3月5日に上智大学四谷キャンパスにて一般社団法人日本臨床宗教師会の第1回目の資格認定証授与式が行われ、166名の認定臨床宗教師が誕生しました。166名中、6名が当センターの修了生です。

当日は教育プログラムの認定も行われ、種智院大学臨床密教センターの臨床宗教師養成カリキュラムも正式に教育プログラムとして認定されました。また教育プログラムの認定研修指導者として当センターの松本峰哲センター長が認定を受けました。



◀平成30年3月5日に行われた資格認定証授与式の様子。

種智院大学臨床密教センターのカリキュラムを修了した修了生6名も臨床宗教師として認定を受けました。

## 新聞報道

### 種智院大臨床密教センター 頭でなく「心」で感じて 臨床宗教師養成2期目がスタート

#### 真言僧の役割を実践探究



研修のグループワークを行った受講生たち

【京都府】種智院大学臨床密教センター（京都市伏見区、松本峰哲センター長）は、11日、滋賀県大津市の東寺真言宗大本山石山寺で臨床宗教師養成講座の2期目を開講した。すべての人に救済を続ける「普賢行」を願う密教僧としての臨床宗教師を目指し、44〜60歳の真言宗僧侶4人が心のケアの実践に向けた研修に参加した。

種智院大学臨床密教センターは、2017年度臨床宗教師養成講座第1回全体会の様子が掲載されました。

2017年9月28日の佛教タイムスに、  
2017年度臨床宗教師養成講座  
第1回全体会の様子が掲載されました。

「頭でなく「心」で感じて  
臨床宗教師養成2期目がスタート」

種智院大学臨床密教センター  
臨床宗教師養成2期目がスタート

## 臨床宗教師関係団体

日本臨床宗教師会

sucj@gmail.tohoku-university.jp（事務局）

北海道東北 ht.rinshushikai@gmail.com（事務局）

関東 kanto.rinsyo.syukyoshi@gmail.com  
（事務局）

中部 chubu.rinsyu@gmail.com（事務局）

関西 info.kansai.chaplain@gmail.com  
（事務局）

中国地方 ch5rinshu@yahoo.co.jp（事務局）

四国 p005@me.com（童銅啓純）

九州 k.rinsyu@gmail.com（事務局）

### 寄付のお願い

臨床密教センターの理念及び臨床宗教師養成の趣旨に賛同してくださる方に寄付金をお願いしております。

#### 【寄付金の目的・使途】

目的：臨床密教センターの運営及び臨床宗教師養成講座等、センターの実施する講座等運営の為に必要な費用に充当することを目的としております。

使途：臨床密教センターの経常的経費及びセンターの実施する講座等の運営費に充当いたします。

#### 【寄付金の免税措置について】

臨床密教センターが設置されております学校法人綜藝種智院は、文部科学大臣から寄付金募集について特定公益増進法人の認可を受けています。ご寄付をいただきました場合、以下の基準により個人又は法人の所得から控除され、税制上の優遇措置を受けることができます。

#### 【寄付に関するお問い合わせ】

学校法人綜藝種智院 法人事務室

Tel：075-604-5600（大学代表）

〒612-8156 京都市伏見区向島西定請70番地

### 編集後記

臨床密教センター2回目となる臨床宗教師養成講座が無事に終了し、今号がようやく完成しました。皆様のお力添えに感謝いたします。第1号よりボリュームは抑えているものの、中身がぎっしりと詰まった第2号になりました。どうぞご一読ください。

種智院大学 臨床密教センター  
第2回臨床宗教師養成講座 報告  
2018年3月22日発行（第1刷）

## 種智院大学 臨床密教センター

〒612-8156

京都市伏見区向島西定請 70

Email: rinmitsu@shuchiin.ac.jp

Tel: 075-604-5743

Fax: 075-604-5646

